

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200539		
法人名	社会福祉法人 愛 世 会		
事業所名	グループホーム センチュリー21		
所在地	山口県宇部市大字山中126番1		
自己評価作成日	平成29年10月16日	評価結果市町受理日	平成30年3月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居室、リビング、廊下すべてLEDを設置してハード面でも明るさを重視しています。また、カメラをリビング、廊下に2台設置しており、プライバシーには十分配慮しながら事故予防、事故再発防止に取り組んでいます。お食事は、栄養バランスに配慮しながら利用者様の希望等に添って献立を作成し、お手伝いをいただきながら、一緒にテーブルで食べています。また、季節感を味わっていただくためにも、夏祭りの参加、花見等の外出、ドライブ、外食等は計画的に行っており利用者様にとても喜んでいただいております。「ゆっくり、一緒に、楽しく」を事業所のモットーにしており、ゆったりとした雰囲気作りを目指しております。急変時等の医療関係も充実しており、看護師の24時間オンコール体制、協力病院の体制また、併設している特養からの応援体制も整備されています。月1回発行のグループホーム便りを発行し、年1回のセンチュリー21家族会などを通して、幅広いご意見をお聞きしながら利用者様の安全で安心できる生活環境を目指して職員一同日々、研鑽して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、日々の関わりの中で常に利用者寄り添われ、利用者の発した言葉や表情、対応等を記録され、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めておられ、食事の献立づくりや外出場所、得意分野での活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援に活かされ、利用者の笑顔が自然に出るように支援に取り組んでおられます。管理者の指導のもと、全職員で事業所のモットーである「ゆっくり、一緒に、楽しく」を実践しておられます。事業所では、年間計画を立てて、毎月実施される拠点4施設合同での研修に加えて、外部研修の機会の確保や毎月、内部研修(グループホームの基礎知識、事故対応と防止策、感染症等)を実施されるとともに、日々の業務の中で先輩職員や管理者の指導を受けながら、職員が働きながら介護の技術や知識を学べるように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	センチュリー21の基本理念 1、人権を尊重し「自分らしく暮らしたい」という願いを叶えるように努めます。 2、多様なニーズに対応し自立支援とサービス向上に努めます。 3、地域との交流を大切にして地域福祉の拠点となるように努めます。 以上のような基本理念を念頭に置き、ホーム独自の「ゆっくり・一緒に・楽しく」を掲げ常に利用者様を中心に理念を職員と共有し実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。ケースカンファレンス時や月1回のグループホーム会議時に利用者が「ゆっくり、一緒に、楽しく」暮らしているかを話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の施設全体で一つの自治会となっている。また、利用者と地域の文化祭に参加したり、クリスマス会に保育園の園児を招待したり、夏祭りには多くの地域の人達に来ていただけるように来園を呼び掛けている。	利用者は近隣地域の文化祭の見学に出かけている。利用者は、拠点施設主催の夏祭りや出店(綿菓子、焼きそば、ゲームなど)や盆踊りに職員や家族と一緒に参加して、地域の人と交流している他、クリスマス会では来訪した保育園児の遊戯を楽しんだり、家族交流会と同日開催の敬老祝賀会では、家族と一緒にボランティアによる歌や日本舞踊を楽しんでいる。年に1回、仏教婦人会による清掃活動ボランティアや、中学生の福祉体験学習を受け入れている。日常的には馴染みのスーパーマーケットに買物に出かけて店員と挨拶を交わすなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生と毎年「ふれあい体験学習」と称して認知症高齢者とふれあうことで中学生にも認知症の人の理解をしていただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し自己評価及び外部評価の結果は職員全員で把握して改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義について職員に説明し、グループホーム会議で項目毎に全職員から聞き取り、一人でまとめている。職員は自己評価をケアの振り返りや利用者との関わりを見つめ直す機会と捉えている。前回の外部評価結果を受けて、外部研修受講の機会の確保や内部研修の計画的な取り組み、事故防止に向けた研修の実施等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員での自己評価への取り組み ・評価を活かす工夫
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を年6回開催しており、利用者家族の代表、民生児童委員2名に参加をしていただき、利用者の近況報告、研修報告、情報交換を行いサービスの質の向上に活かしている。	会議は年6回開催し、利用者の状況や日々の活動、行事予定、事故、ヒヤリハット報告、外部評価報告、研修報告をした後、話し合いをしている。家族交流会と同日に行い、避難訓練の実施や参加者との親睦、交流ができるように工夫している。家族からは利用者が重度化していく中、利用者に関わる時間を多くとれるように、事業所の食事は拠点施設厨房からの配食にしてはどうかという意見があり、食事提供の在り方について栄養面、衛生面から検討している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宇部市の介護保険課、生活支援課と情報交換を密にとりながら、利用者様の生活の質の向上に取り組んでいる。	市担当者とは運営推進会議時の他、電話や直接出向いて、相談して助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、相談や情報交換を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で「身体拘束廃止委員会」を設けており年2回会議を行っている。また、どのような行為が身体拘束になるのか職員間で話し合い拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は、マニュアルを基に管理者からの指導や内部研修(高齢者虐待)で学んでいる他、拠点施設の「身体拘束廃止委員会」からの情報、資料等によって、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠はしないで、拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては気がついた時には管理者や主任が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体で虐待防止に向けた勉強会が行われており、事業所内においても独自の研修会を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてまだ、職員全員十分に理解されているとは言えない。今後、理解を深めていくために学習する機会を持ちたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規利用者の本人、ご家族には、契約書、重要事項説明書等で利用内容等を説明し理解・納得を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に「苦情申し出箱」を設置している。また、年一回の家族会総会を開催し、幅広い利用者様、ご家族からの意見を求めて運営に反映されるように努めている。	苦情受付窓口、受付担当者、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。家族からは、面会時や運営推進会議参加時、家族交流会参加時、拠点施設での敬老祝賀会参加時、行事参加時、電話、手紙等で意見や要望を聴いている。「苦情申し出箱」を設置している。意見や要望は「個別入居記録」に記録して共有し、支援に活かしている。男女の利用者がいることから、その対応についての要望があり、職員間で支援方法について話し合い、工夫し、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループホーム会議、毎日の申し送り時で職員の意見、提案が出されており、反映されている。	管理者は、月1回のグループホーム会議や申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。日頃から意見が言いやすいように、管理者から職員に言葉かけを行っている。職員からは利用者の排泄用具や介助方法についての意見があり、排泄介助の改善に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇が取りやすい環境作りに努めており、資格取得者には資格手当を支給している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議後の施設内研修の参加、グループホーム独自の研修会また、3人の研修委員が決められており、研修委員の発表も年2回予定されている。11月、12月	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供し、3名が受講している。受講後は復命の後、資料の回覧やグループホーム会議での伝達を通して職員全員が共有している。拠点施設研修は、研修委員が年間計画を立て、毎月、倫理、認知症、感染症、褥瘡予防、高齢者虐待、介護事故予防、食中毒、身体拘束、地域との連携等を実施している他、年2回、事例検討や事例発表をする機会がある。内部研修は、管理者を指導者として、毎月、グループホームの基礎知識、事故対応と防止策、食中毒、インフルエンザの予防、ヒヤリハット事例検討等を実施している。新人研修は、日々の業務の中で先輩職員から指導を受けて働きながら学べるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会に加入しており、勉強会などの参加に心掛けサービスの質の向上に取り組んでいる。しかし、人員等の問題で外部との交流する機会はあまり取れていない。		
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等、職員全員が常に耳を傾けて信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼を得るために、不安や要望を積極的に聞き入れ、安心できる関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供する段階で本人にとって何が最も必要な支援になっていくのか見極め、ケアプラン等に反映していくよう努めている。他のサービスの利用は現在されていない。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム独自のキャッチフレーズでもある「ゆっくり・一緒に・楽しく」を念頭に本人の行動のペースに合わせてながら、共に生活するという立場を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に特変等があった場合には、すぐに家族に連絡、報告、相談をして情報を共有している。また、面会等があれば、近況報告を行い共に支えていく関係を構築している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親族の訪問、電話の取次ぎ等を支援している。また外出を通して、思い出の地等を散策して支援に努めている。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人、民生委員の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。思い出の地(宇部空港や常盤公園)や馴染みの外食店に出かけている他、家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や馴染みの商店での買物、法事への参加、墓参、外出、外食、外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員は利用者が孤独にならないように話しかけ関わり、支え合うような支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族等の必要があれば、本人の利用状況を説明したり、相談や支援に努めている。		
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中で希望や生活での意向を把握し、職員間の情報共有を行いケアプランに反映している。	入居時のアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中で利用者に寄り添い、利用者の発した言葉や表情、対応を業務日誌や申し送りノートに記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や家族からの情報、日ごろの会話などから把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人とのコミュニケーション等を通して、心身の状況、状態の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と利用者の担当者が随時カンファレンスを行い、本人や家族の意向を踏まえながら介護計画を作成している。また、医師、看護師の意見も反映しながら本人本位の現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、カンファレンスを2カ月に1回開催し、利用者の思いや家族の意向、医師、看護師の意見を参考にして話し合い、職員全員で介護計画を作成している。2カ月毎にモニタリングを行い、6カ月毎に、見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	システムになり記録の簡素化を行ったが、入浴、食事、排泄等の記録は職員間で情報を共有している。また特記、特変等があれば、朝の申し送り時にて情報共有を行い実践計画、介護計画の変更に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向、希望を大切にして既存のサービスにとらわれない柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しているが資源を反映した支援、地域支援との協働は現在のところ難しい状況にある。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医がかかりつけ医となっており、木曜日、土曜日は定期の診察日となっている。また、特変時や家族の希望がある場合は、嘱託医に紹介状を書いていただき適切な医療機関を受診してもらうよう支援している。	本人、家族が希望するかかりつけ医とし、月2回の訪問診療がある。皮膚科は月1回、歯科は月2回の訪問診療がある。その他の医療機関への受診は事業所で支援している。毎日の健康状態を記録している介護記録の内容の内、医療に必要な内容は、毎日、嘱託医に電子送信している。受診結果は介護記録で共有し、家族には電話で報告している。夜間や急変時は看護師が嘱託医に連絡して、協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の看護部会に参加し利用者の情報を提供している。また、利用者の身体的特変があれば、看護職員と相談し、嘱託医の報告、相談による受診や処置が受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院を定めており、院内の地域連携室と連絡・連携をとりながら情報交換や情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」を定めており、嘱託医、看護師、家族との話し合い、状況の説明に努め、本人の最善の方向、方針を共有し支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、事業所のできる対応について契約時に家族に説明し、意向を書類で確認している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人、家族の意向を聞き、嘱託医に相談して方針を決めて共有し、本人、家族の気持ちに添う支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	足元不安定等状況の変化があった場合は、朝の申し送り時に情報を共有し、事故防止に努めている。急変時の応急手当、初期対応については、定期的な訓練が必要と思われるが、能力については、職員間でばらつきがある。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット、事故報告書に発生状況や対応、原因等を記録し、その日の勤務者で予防策を話し合い、管理者、施設長へ報告し、申し送り時に職員間で共有している。月1回のグループホーム会議で再度検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。法人が消防署の協力を得て実施している救急救命法やAEDの使用方法についての研修を職員は2年に1回受講している。内部研修で不快害虫(ムカデ)に刺された場合の応急手当や転倒時の対応等、マニュアルに沿って初期対応の研修を実施しているが、全ての職員が実践力を身につけるまでにはいたっていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回以上、全事業所で夜間想定、日勤想定での避難誘導訓練を行っている。また、年1回の風水害の対応、避難誘導についても取り組んでいる。	マニュアルがあり、拠点施設合同で年6回、昼夜の火災を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火訓練を利用者も参加して実施している他、風水害を想定した避難訓練を年1回、消防署の協力を得て実施している。運営推進会議で訓練への住民の参加を呼びかけ、運営推進会議と同日に避難訓練の実施、地域や地元消防団との連携など、地域との協力体制を築いている。非常用食品は拠点施設で備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重と誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	職員は、拠点施設での研修(倫理)や管理者による「人権を尊重した言葉づかい」についての指導を通して学び、利用者を人生の先輩として接し、尊厳を傷つけない、否定しない言葉づかいや優しい対応をしている。不適切な対応があれば、管理者や主任が指導している。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望をくみ取り、レクリエーションや外出等に反映させられるように支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に歩調を合わせるように支援している。利用者を中心に希望にそった支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に担当職員がついており、衣類等の整理季節に応じた服の着用などできる限り支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き入れ三食とも調理している。テーブル拭き、配膳、後片づけ等役割を持っていただき、利用者と一緒に同じテーブルで食事をしている。	利用者の好みを聞いて献立を立て、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、食材の買物、米を研ぐ、野菜の下ごしらえ、切る、盛り付け、トレイを拭く、箸を並べる、お茶を配る、お茶を袋に入れる、食器を洗うなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルについて食材の話しながら一緒に食事をしている。花見弁当を持って戸外での食事や月1回の外食、ケーキの付く誕生日食、季節行事食(恵方巻、節句の寿司、ソーメン、餅つき)、家族の協力を得ての外食等、食事が楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など個人記録を行い、職員全員が情報共有している。栄養士は関与していないが、摂取量、栄養面など常に気を配り、メニュー等に配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを毎食後行っている。義歯は、毎日就寝時に洗浄液に浸けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴えや状況にはすぐに対応している。排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握しながら、排泄の自立、現状維持に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、言葉かけやトイレへの誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量は毎食後チェックして、把握に努めている。また、朝のおやつには、牛乳類を提供し、レクリエーション、体操など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週4回程度、午後に行っている。利用者一人ひとりの希望に添ってゆっくり入浴が楽しめるように支援している。また、清拭、足浴、シャワー浴など本人の体調に応じた支援をしている。	入浴は毎日、13時から16時までの間可能で、入浴時間や順番、湯加減、入浴剤の利用、季節の柚子湯等、一人ひとりの希望に合わせて、会話を楽しみながらゆっくりと入浴できるように支援している。入浴したくない利用者には、無理強いしないで、順番を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭やシャワー浴、足浴、シャワーチェアの利用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子や状態を鑑みてベッドに誘導したり、ソファに休んでもらうなどの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書には職員全員が目を通し、処方されている薬の内容を理解し、配薬する時は、誤薬が起こらないように本人確認は徹底している。また、薬の内容が変わって本人の状態に変化があった時はすぐに看護師、嘱託医に連絡、報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	2種類の新聞やテレビ、DVDの鑑賞、カラオケ、また、季節に応じた外出、外食を通して利用者の気分転換等の支援をしている。利用者の能力に応じた役割、食事準備、洗濯物たたみなど張り合いのある1日であるように支援している。	掃除(モップを使う、掃く、拭く)、カーテンの開閉、シーツ交換、枕カバー交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物を居室に持ち帰り収納、献立を立てる、食材の買物、米を研ぐ、野菜の下ごしらえ、盛り付け、トレイを拭く、お茶を配る、お茶を袋に入れる、食器を洗う、新聞や雑誌を読む、テレビやDVDの視聴、歌を歌う、折り紙、カラオケ、トランプ、相撲ゲーム、脳トレ(漢字、計算、しりとり、クイズ)、ラジオ体操、老人体操、きよしのズンドコ節体操、口腔体操、地域の文化祭への参加、拠点施設の季節行事(夏祭り、敬老祝賀会、クリスマス、餅つき大会等)、外食等、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物等の付き添い、季節に応じた外食、花見、ドライブ等利用者の希望に添った支援を行っている。	周辺の散歩や食材の買物、季節の花見(梅、桜、つつじ、バラ、菖蒲)、ドライブ(常盤公園、宇部空港、香山公園、江汐公園)、初詣、小野地区の文化祭、月1回の外食の他、家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や商店での買物、外出、外食、法事への参加、墓参など、利用者一人ひとりの希望に応じて出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当事業所は利用者のお金の所持、使用の支援は行っていない。事務所、家族が金銭の管理をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができる環境をつくりを支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑が見える空間を設置して、ゆったりしたリビングにしている。また、LEDをすべて配置しており明るい雰囲気作りになるように支援している。	居間兼食堂には、中庭から陽ざしが差し込み、明るい。室内にはテレビの横に大きなソファや椅子を配置し、ゆっくりとくつろぐことができるように工夫しており、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。台所からは調理の音や匂いがして、家庭的な雰囲気を感じることができる。壁面には、季節の作品やカレンダー、時計、童話の折り紙が飾ってある。温度、湿度、換気、照度に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル等利用者が心地よい雰囲気になるよう工夫しており、利用者同士が自由に会話ができるよう支援している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り本人の使い慣れたものを家族にお願いし、設置している。テーブル、テレビ、ダンス、椅子等本人が心地よく生活できるように工夫、支援している。	箆笥、衣装ケース、衣装かけスタンド、テレビ、テレビラック、椅子、仏壇、時計、温湿度計、新聞、雑誌、アルバム、家族写真、クッション、化粧品、帽子等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、花のカレンダーや人形を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーや歩行器、ポータブルトイレを利用して本人が安心して、また安全に自立した生活ができるように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム センチュリー21

作成日: 平成 30 年 3 月 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	管理者を中心に自己評価を作成しているが、職員全員が意見を出しながら作成しておらず、個々の意思が反映されていない点がある。職員全員で自己評価に取り組み、情報を共有し、評価を活かす工夫が大切ではないか。	職員全員で、自己評価表を作成し、情報を共有する。自己評価に関して職員ひとり一人が意識を持ち意見を出し合いステップアップしていく。	月1回自己評価に対する会議を設け、自由に意見を出してもらい、職員全員の意思統一を図っていく。自己目標に対して、管理者だけでなく、職員全員で評価し、統一された判断のもとで、問題点、課題を再度、認識していく。	12ヶ月
2	35	事故が起きた時の応急手当や初期対応の定期的訓練を継続する必要がある。職員全員がマニュアルのもとで対応しているが、職員間でばらつきがあり統制がとれた判断で瞬時に対応できていない点がある。継続的な訓練が必要ではないか。	事故が起きた時は、職員全員が統一された対応を行う。マニュアルにもとづき瞬時に行動する。職員間でバラつきが無いように判断基準を明確化する。計画を立て継続的な訓練をしていく。	再度、マニュアルを見直し、予防策も検討していく。応急手当、初期対応については、看護師と連携し、職員全員が瞬時に対応できるように、三ヶ月に1度、実践に即して、事故を想定して勉強会を開く。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。